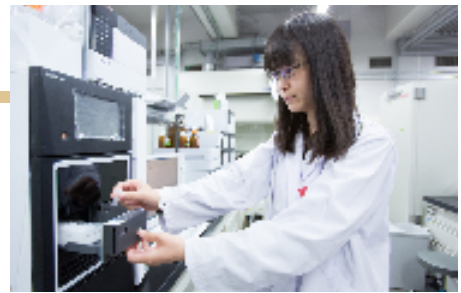


薬剤師国家試験の高い合格率にどんなヒミツがあるのか先輩に聞いてみました。



昭和薬科大学の魅力 国家試験で高実績を続ける!

薬学部を卒業する時、受取らなければならない書類が3点ある。卒業証書と内定書(就職)、そして薬剤師免許証だ。薬剤師として働くにはこの3点は欠かせない。

今回、薬系進学は薬剤師国家試験で安定した成績を残す大学にスポットをあてた。昭和薬科大学は、6年制移行後の国家試験で高い合格率(97回/99.50%、98回/95.26%、99回/84.54%、100回/81.08%)を示している。過去4回の国試で合格率上位を記録する常連校だ。何処にそのヒミツがあるのだろう。卒業生に話を聞いた。調剤薬局に就職した田村さんと、製薬会社の医薬情報担当者(MR)としてキャリアをスタートさせた萩平さんだ。

●昭和薬科大学の特色を教えてください。

田村 私たちの研究室は、卒業生の皆さんが集まってパーベキュー大会を行うなど卒業しても強いつながりがあります。昭和薬科大学は先輩とのつながりが強く、人間的なつながりは就職活動で頼りになります。また先生と気軽に話をさせていただけるアットホームな雰囲気が良いですね。さらに薬剤師国家試験が4年連続トップクラスでした。サポート体制がしっかりしていますから、いい成績につながったのではないのでしょうか。国試の成績は私たちの自慢です。

萩平 卒業研究の論文発表が9月にあり、私は

そこまでは実験や論文制作を行っていました。論文発表が終わって本格的な準備に入ったのが10月でした。短期集中でできたことが合格につながったのではないのでしょうか。

田村 卒業研究は実験を伴う本格的な内容で、大学院レベルの研究を学生全員が経験します。私は、研究を経験したことが薬剤師国家試験に大きく影響したと考えています。国試に研究で経験した内容が出題され、実際に体験した実験や文献調査の経験が正解につながったと思います。

●日常の学びに関するサポートも感じますか?

萩平 私はできるだけ早い時期に物理・化学・生物(物化生)の力をつけておくことは大切だと思います。大学入試は、入試科目を中心に勉強しますが、できれば高校時代に「物化生」を勉強して下さい。基礎科目に苦手科目があると入学しても授業が理解できないと思います。将来の、卒業、国家試験にも影響するのではないのでしょうか。

昭和薬科大学には、テストで成績が悪かった学生のための特別講義があります。この授業を受けた友達は「特別講義を受けたら分かるようになった」と喜んでいました。面倒見のいい大学です。

田村 日常の講義でも、有機化学は講義の後に演習を行って、体験(実験)を通して確認するなど理解しやすくする配慮がされています。6年次になると国家試験の準備が始まります。4月から9月の間、毎週1回、物理・化学・生物(物化生)の授業があります(希望者)。8月に補講がありますが、成績下位20%くらいの

学生がここで苦手科目を克服します。10月から11月の1カ月半は全範囲を対象にした復習講義を外部講師が行います。さらに模擬テストを行った後、そのまま卒業試験に移ります。

萩平 卒業試験は12月から2月の間に3回行われ、卒試に合格するのが大変です。模擬テストから卒業試験と緊張感を保ったまま国家試験に臨むスケジュールが組まれています。

田村 国試対策の外部講師の先生は、薬剤師の方もおられ「実際はこんな事例があるよ」と具体的な指導です。国試本番では「難しい出題!」を実感しました。大学で勉強したこと、実務実習で習ったこと、卒業研究の経験などいろいろな経験が生きた出題もありました。

萩平 早い時期に物理と生物を克服して、基礎固めをしておくことがコツですね。低学年の定期試験は単位を取るための勉強と感じていました。しかし国家試験の準備をすすめていると有機化学など全ての科目がどこかでつながっていることに気づきます。私の受験準備は短期集中で不安もありましたが、運も味方してくれたと思います。本番では1日目の自己採点で合格を確信しました。昭和薬科大学には、国試合格に向けたさまざまな支援が期待できます。安心して入学してください。

田村 昭和薬科大学には、就職に強いという特色もあります。CSS(キャリア・サポート・ステーション)のスタッフの皆さんには、大変お世話になりました。自分の将来の進路に関する豊富な情報、個別面談、合同会社説明会などのイベントなどはありがたかったですね。

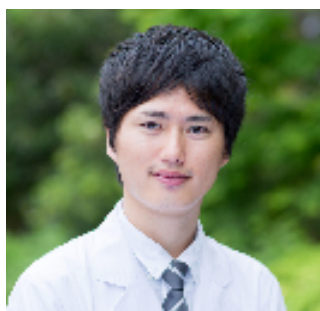
●ありがとうございました。

先輩のコメント

高校の先輩のアドバイスで昭和薬科大学に入学。正解でした。

田村 和章さん

東京都立狛江高等学校出身
薬剤師(調剤薬局)



入学の目的は薬剤師でしたが、調剤薬局の薬剤師の仕事について明確なイメージを描くことができませんでした。しかし実務実習を受けた調剤薬局では、様々な業務を体験させていただき、薬剤師は一人ひとりの患者さんを健康にするために頑張っていることを知りました。今後、在宅医療が重要になりますが、医師と連携をとりながら薬のプロとして医療に貢献できるところに魅力を感じます。入社した会社は「3年で一流になる」という目標を掲げ、教育・研修が充実しています。毎月小テストがあるなど勉強できる環境も魅力です。私も患者さんの健康のため頑張ります。

社会人としての第一歩を製薬会社のMRからスタートさせます。

萩平 悠也さん

東京都明星学園高等学校出身
MR・医薬情報担当者(製薬会社)



卒業研究で生物系の研究をしていましたが、国家試験で関連する問題が出題されました。実験に関する出題は、机上の勉強ではイメージがわかないと思いますが、実体験したことが大きかったと思います。

就職活動では、まず社会人になりたいと考えて企業への就職を考えました。人と話すのが好きですし、生物の知識がいかせる仕事として製薬会社のMR(医薬情報担当者)を選びました。とくにオンコロジーMR(がん領域)になりたくて会社を選びました。これから多くの体験を通して、社会人として成長していきたいと考えています。